雌阿寒岳の火山活動解説資料

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル２（火口周辺規制）が継続＞
雌阿寒岳のポンマチネシリ火口付近で火山活動の活発な状態が継続しています。
ポンマチネシリ火口から約500ｍの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項】
ポンマチネシリ火口から約500ｍの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。
風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

ポンマチネシリ96-1火口では20日朝には白色の噴煙が確認されており、噴煙の量は引き続き多い状態で経過していました。その後は本日（22日）９時まで、気象条件等により観測できていません。ポンマチネシリ96-1火口の噴煙は16日以降、最高で火口縁上約800m（19日21時頃）まで上がっています。

ポンマチネシリ火口近傍の阿寒富士北２観測点では、12日に発生した火山性微動に伴い火口方向が上がる傾斜変動を観測し、その後も緩やかに継続しています。

ポンマチネシリ火口付近では、引き続き火山性地震の増減が認められ、11日以降のやや増加した状態が継続しています。

16日に北海道の協力により上空から観測した画像を解析した結果、火山灰はポンマチネシリ火口内およびポンマチネシリ96-1火口近傍のほか、火口の南東から東側にも薄く堆積していることを確認しました。このことから、気象庁が噴火を記録する基準に照らし、今回観測された火山灰の噴出について、噴火として記録することにします。

なお、今回の噴火は96-1火口付近でのみ降灰が認められる程度のごく小規模なものです。

○活動評価

ポンマチネシリ火口付近では、火山性地震の増加した状態や火口方向が上がる傾斜変動が続いており、96-1火口の噴煙は引き続き活発な状態です。

火山活動の活発な状態が続いていることから、ポンマチネシリ火口から約500ｍの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10ｍメッシュ（火山標高）』、『数値地図50ｍメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています

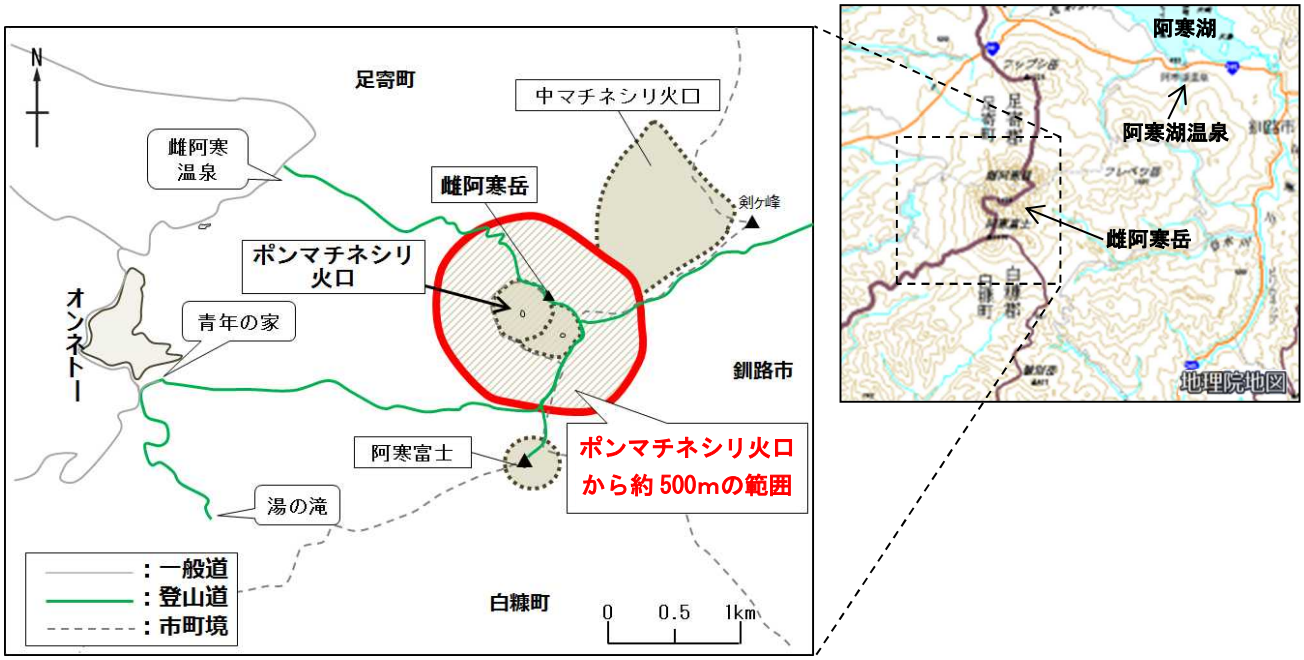


図１　雌阿寒岳　警戒が必要な範囲

・ポンマチネシリ火口から約500ｍの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

図２　雌阿寒岳　南東側から見た噴煙・噴気の状況（上徹別（かみてしべつ）監視カメラによる）

上：2025 年９月 20 日 07 時 10 分　下：2025 年９月 19 日 20 時 41 分

・ポンマチネシリ 96-1 火口では、９月 19 日 21 時頃に噴煙が火口縁上約 800ｍの高さまで上がっています。96-1 火口の噴煙は、引き続き多い状態で経過しています。

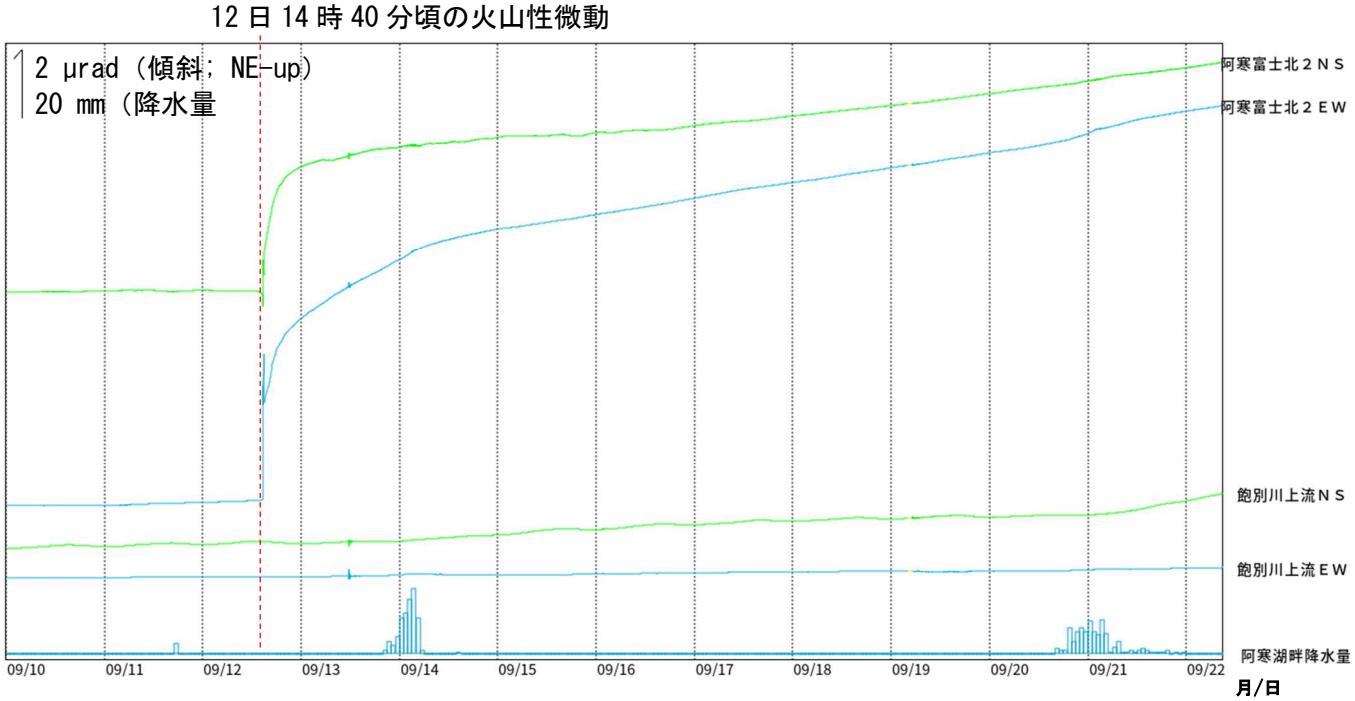


図３　雌阿寒岳　傾斜変動の状況（2025年９月10日00時～22日09時）
・12日の火山性微動に伴って発生したポンマチネシリ火口方向が上がる傾斜変動は、その後も緩やかに継続しています。
・飽別川上流観測点のデータは降水の影響による変動を含みます。

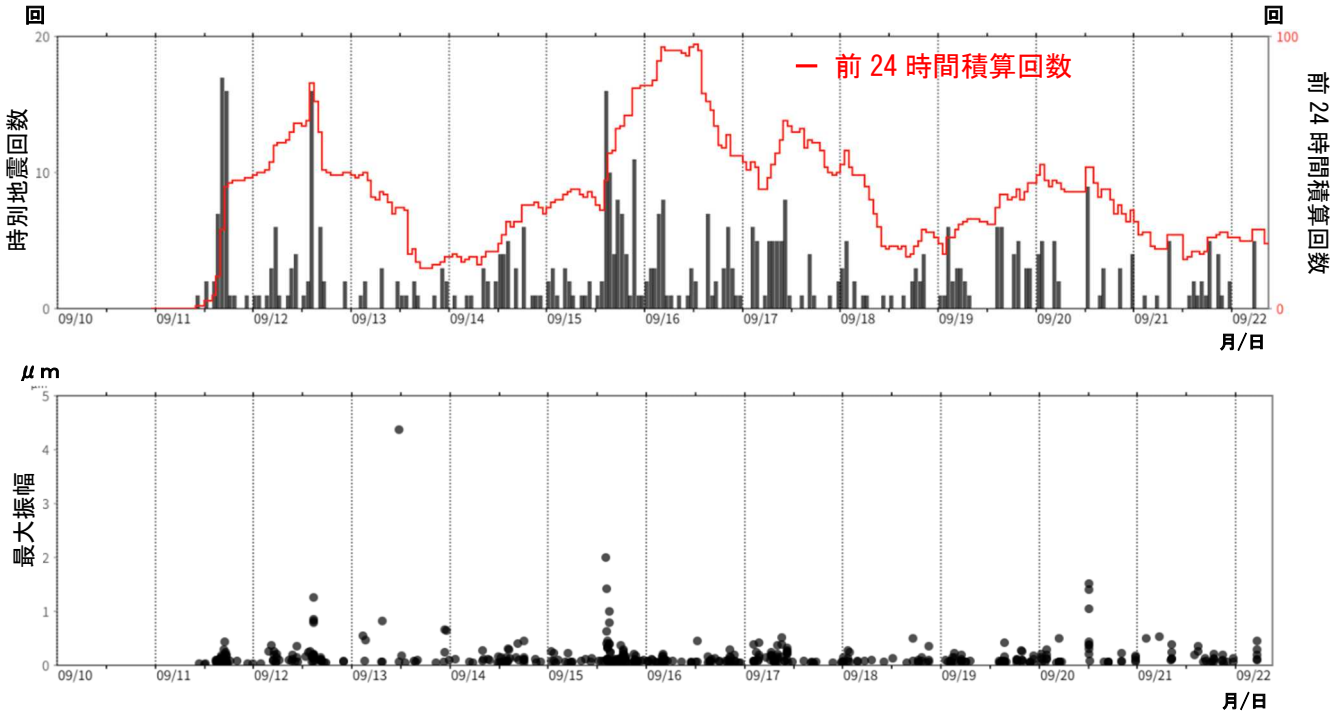


図４　雌阿寒岳　火山性地震の発生状況（2025 年９月 10 日 00 時～22 日 09 時）
上：時別地震回数（速報値）　下：オンネトー南東観測点南北成分の変位最大振幅
・ポンマチネシリ火口付近の地震活動は、増減を繰り返しながら継続しています。

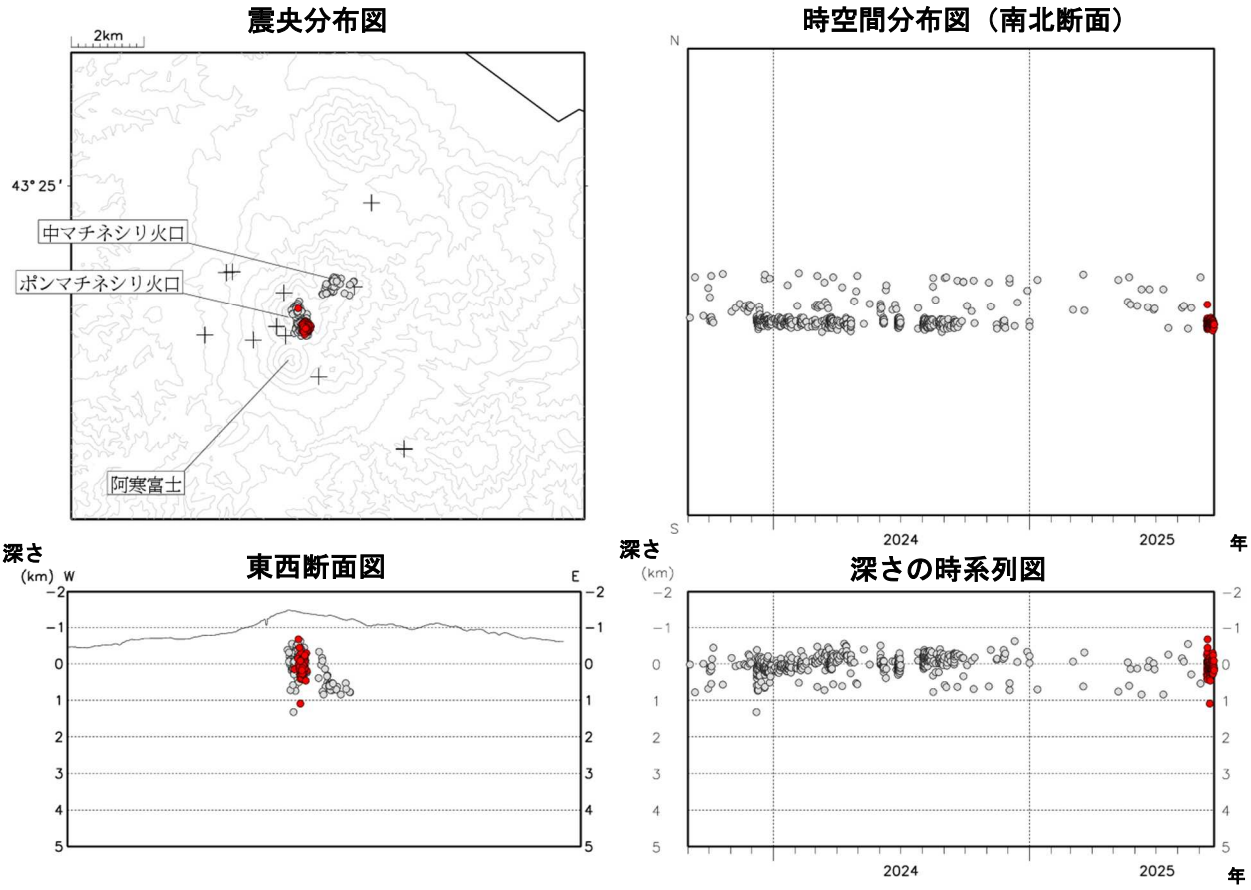
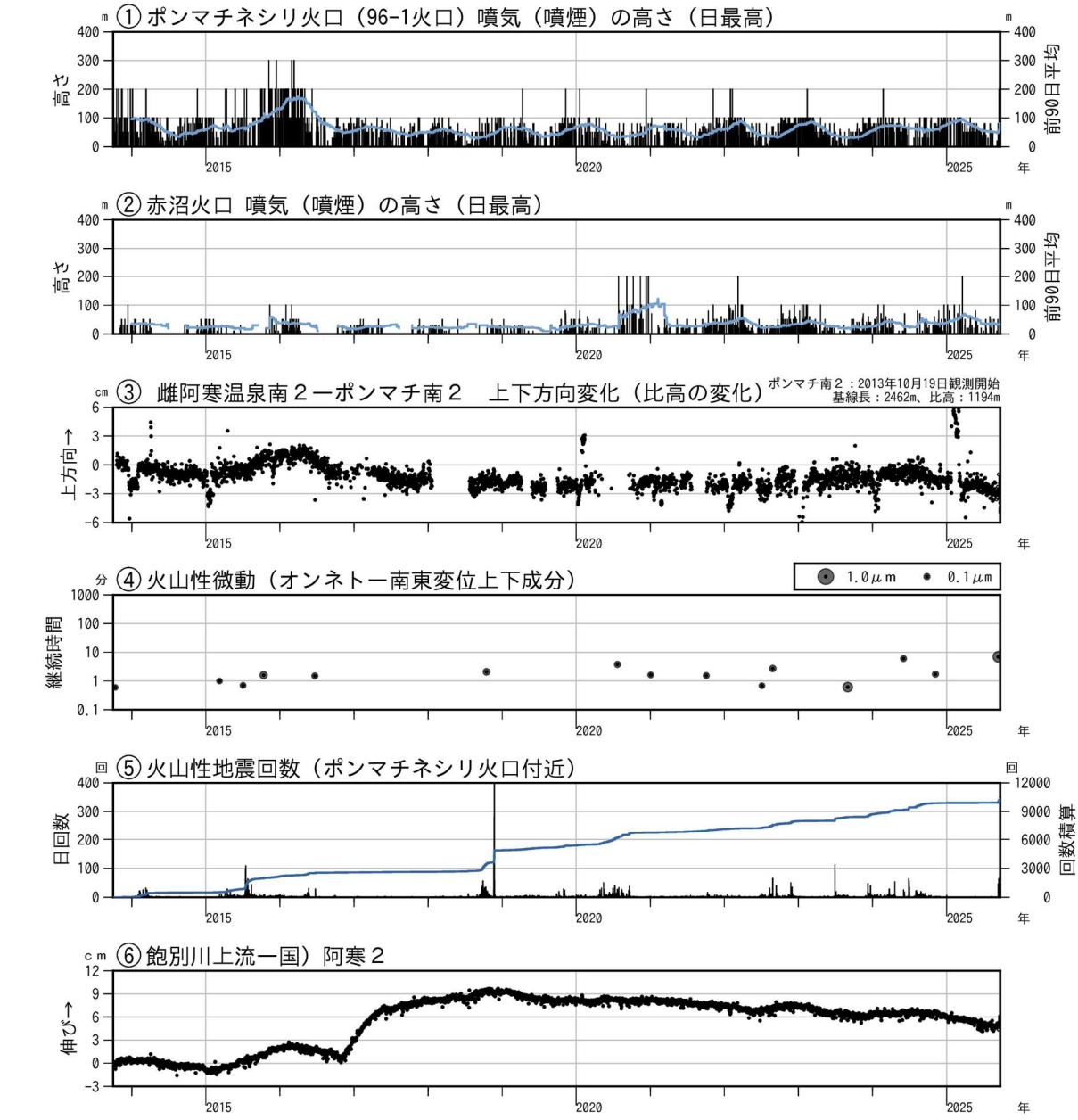


図５　雌阿寒岳　火山性地震の震源分布（2023年９月～2025年９月21日）
●：2023年９月～2025年９月10日の震源　●：2025年９月11日～21日の震源
＋：地震観測点



GNSS連続観測の基線図

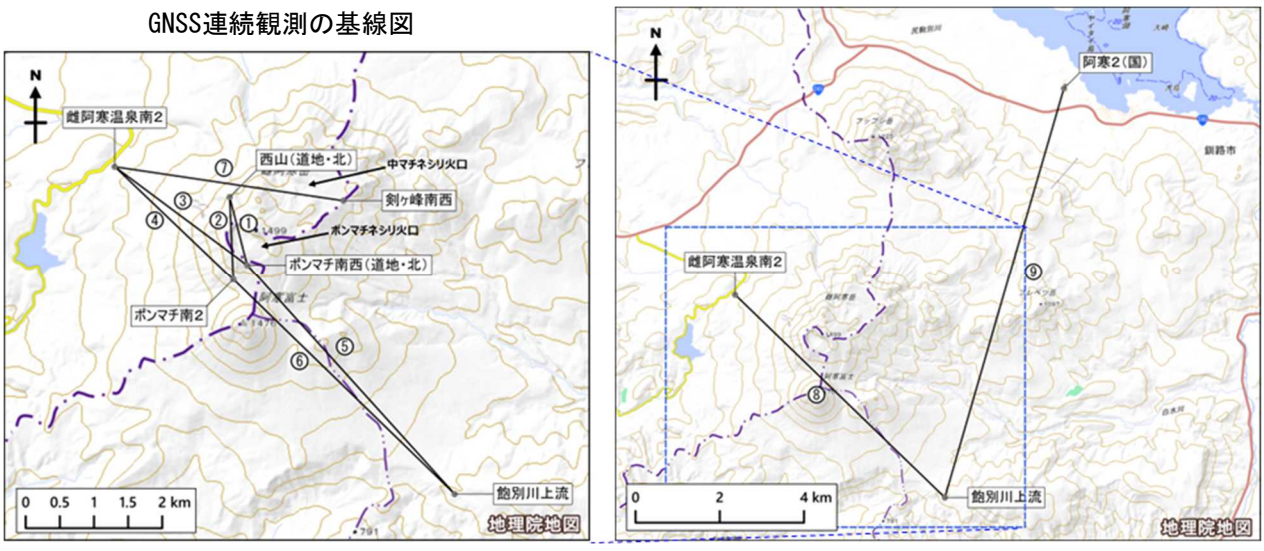


図６　雌阿寒岳 活動経過図（2013年10月～2025年９月21日）

各火口の位置は図１を参照してください。

グラフ③⑥のGNSS基線は、GNSS連続観測の基線図の基線④⑨に対応しています。

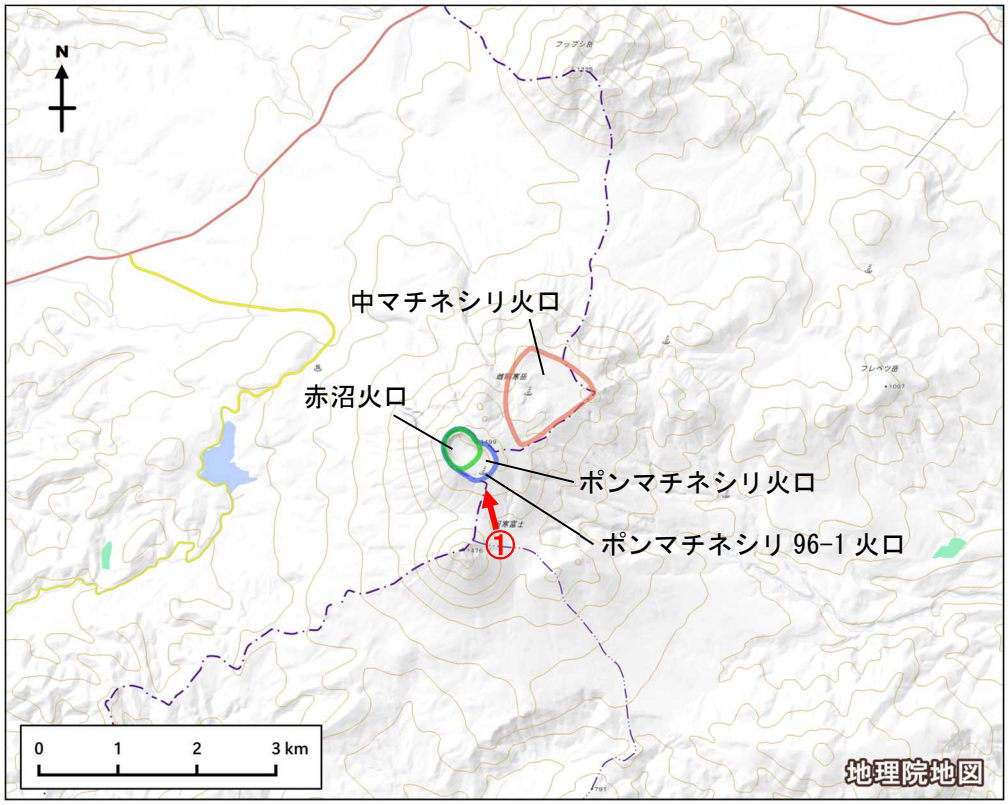


図７　雌阿寒岳　火口の位置図と写真の撮影方向（矢印）
各火口の火口縁は、概ねの範囲を示すものです。

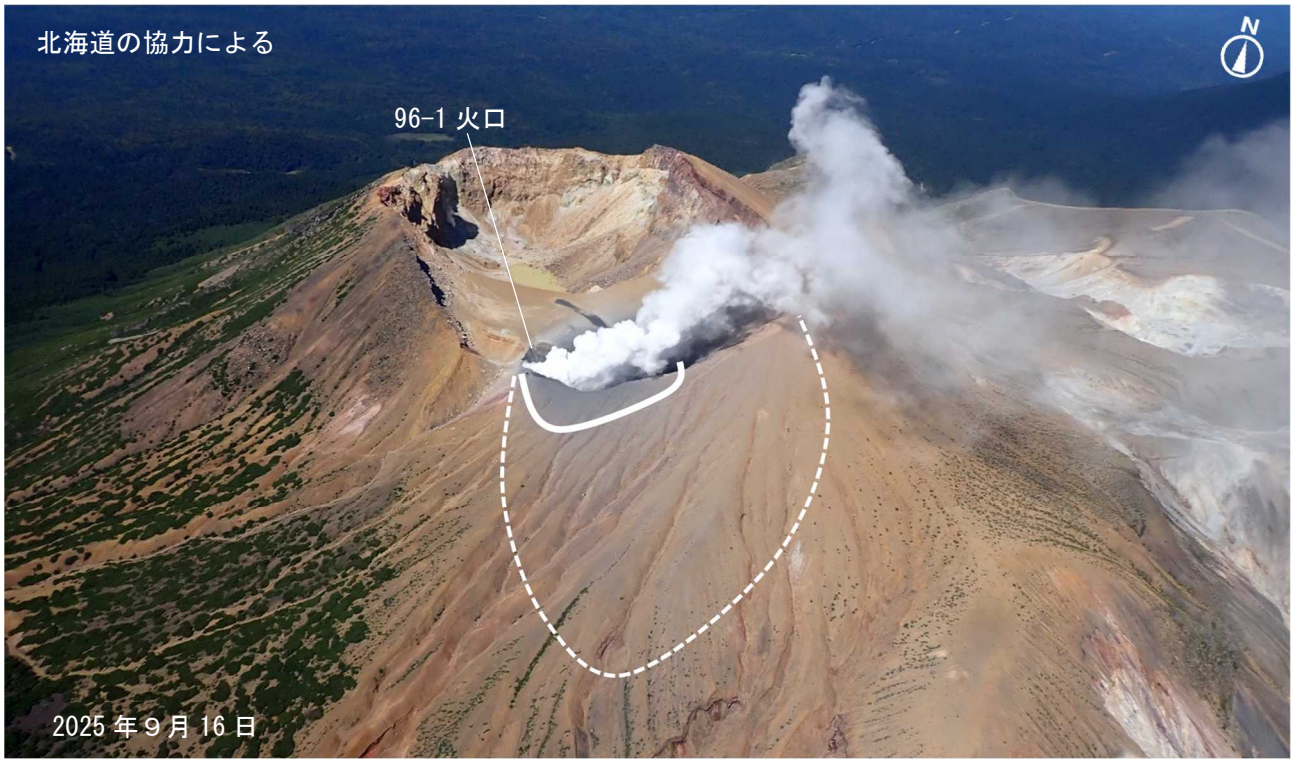


図８　雌阿寒岳　ポンマチネシリ 96-1 火口周辺の状況
南南東側上空（図７の①）から撮影
白実線：火山灰の堆積が明瞭に認められる範囲　白破線：火山灰の堆積が薄く広がっている範囲

・ポンマチネシリ火口内及びその近傍と南東から東にかけての方向に降灰が確認されました。

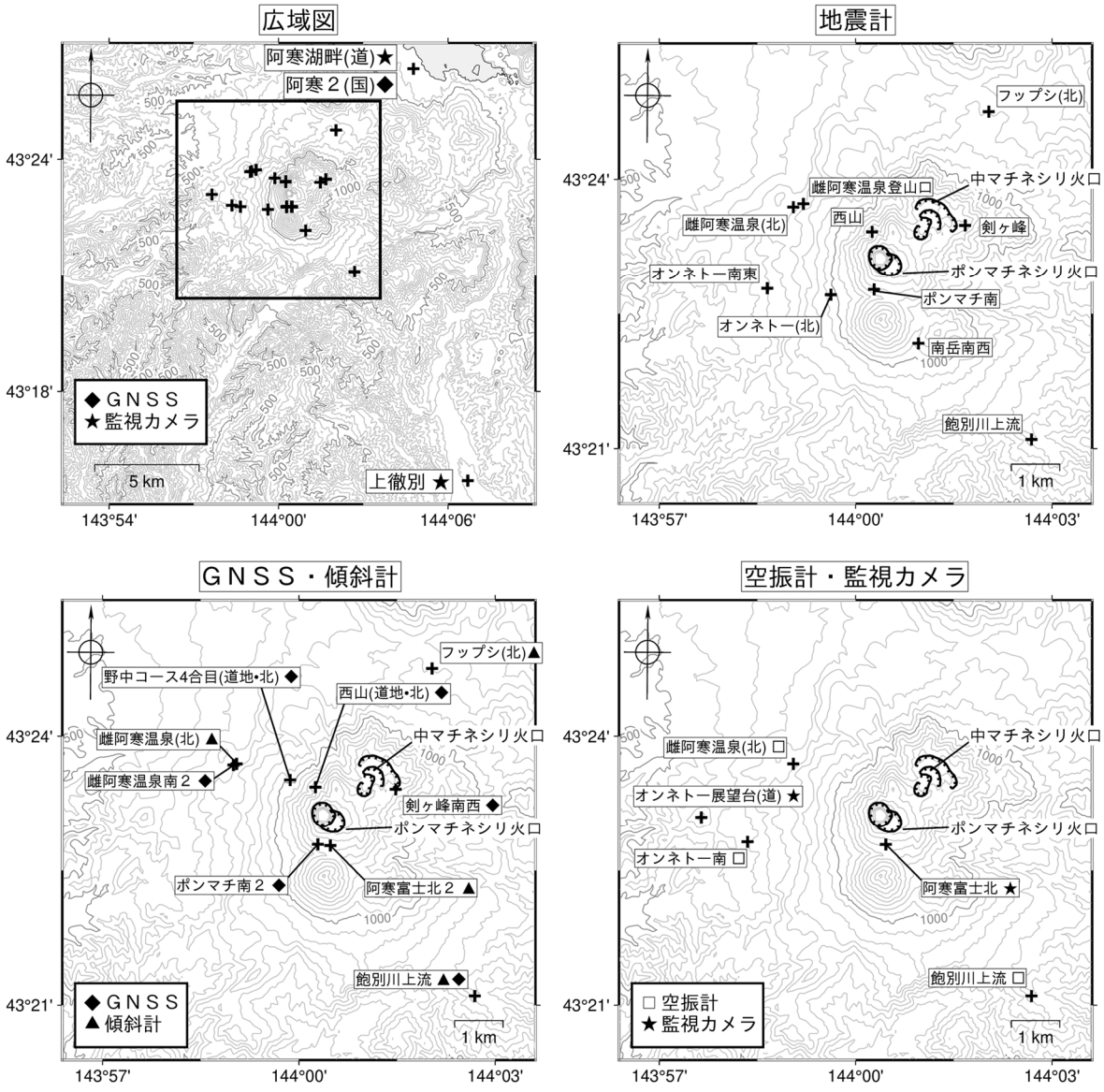


図９　雌阿寒岳　観測点配置図

各機器の配置図は広域図内太枠線で示した領域の拡大で、＋印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院　　（北）：北海道大学　　（道）：北海道
（道地）：北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所